



蓬田村公民館報  
 【蓬 門】第63号  
 発行所 青森県東津軽郡  
 蓬田村公民館  
 印刷所 蟹田印刷所

**消防初め式(初午祭)**  
 二月十二日初午の日にあたり消防団の志気を昂めるために初め式を挙げた。  
 午前七時警鐘を打ち、団員は雄躍役場前集台、指揮者によつて整列

服装点検、閲兵、分列行進、団長訓示、消防長あいさつ、警団警察署長あいさつで厳肅に式を閉じたその間留守部隊によつて各家の火の元点検及び指導した。  
 その後各分団では祝宴を張り明日への鋭気を養った。

# 四十四年度 成人式

## 女子青年建設班教室において

一月十五日成人の日を迎え、この日で成人になられた若者たちが一同に会して女子青年建設班教室において成人式を挙げた。  
 例年この日は猛吹雪に見舞われてきたが、今年はあまり烈しく降らず六十余名が参集し、自覚と責任を胸に書きおごそかに式を終り、県教育庁石川清文先生の記念講演があり、その要旨は、青年の真理の探究について、特に結婚の意義恋愛について碎いてお話し感銘を与えた。

講演が終り一同車座になり座談会に入り四十四年度に当り村当局として青少年に対する一般の施策など話し、村長の力強い答弁がなされ成果を挙げた。  
 なお次年度の成人式は、雪の多い冬場でなく、夏のお盆頃行つたらどうかと希望意見があり、四十五年度成人になる方々も同一希望があれば、夏場に切り替える可能性を充分公民館事務局で検討することを約束し、記念撮影して式を閉じた。

## 成人のことば

成人代表 坂本万蔵



この世に生をうけて、まだ何ひとつ社会の為になっていない私達ですが、これから法的にも社会的にも一人前の人間として貴重な権利と義務が与えられましたと同時に独立した個人として生活し我が国を背負

つて立つて行くにふさわしい人になるという心をきざみ村民としての誇りと自覚をもつて、これからの社会の荒波に向つて常に若者らしく正義を貫く闘志と苦難に耐える気力を旺盛にもつてゆたかな教養を身につけ身体を鍛練し自主性を確立し、これらいろいろの要素をもつて、新しい世紀を創り出す原動力になる覚悟です。  
 今日社会は若者にとつて非常に風当たりが強いと思う。それだけ一部の若者の為に不信心

## 感謝のことば

成人代表 細谷アキ子



ようやく成人として認められる私たちの為に、今日このような成人式を行なつて下さったことを心から感謝いたします。村長さんはじめ来ひんの方々から温い励ましのことばや、数々のご教訓をいただきました、どうやら成人としての自覚ができたような気がいたします。社会人としての門出を前にして、今こそ、私達は自己の内面生活を深め、人格を磨くことを誓います。かつまたそれによつて社会的責任を民主的に全うする真の日本人となることを誓います。  
 その誓いをもつて感謝のことばをいたします。  
 昭和四十四年一月十五日

# 私達の結婚披露宴

中沢4日クラブ 藤田修一

私達の部落、蓬田村中沢では以前まで、結婚式というのはいくつかのお祭りのようなものだったので、私達の部落だけではありません。農家の結婚披露宴というものは、そういうものが現実なものです。二日ぐらいい行なうのが普通となっていて、その内容も、ものすごく豪華で、一人当りの費用も三千元ぐらいたなっています。

更に豪華さを競争するようなことも起きてきました。現在、農家の近代化、農業の企業化、米のコストダウンが強く叫ばれている時に、こういふことは多額のお金を使うということは、時代の要求に逆行するものだと思うのです。

そこで私達の中沢4日クラブでは、蓬田村青年団体連絡協議会の有志と一語に手を組んで、このような結婚披露宴を改善しようと、取り組みお金のかららない、意義ある結婚披露宴をしようと努力してきました。最初に行なつたのが昭和三十九年でした。結婚披露宴の意義を考へて簡素であつて、敵意に、しかも盛大に挙げることを申し合せて私達がいろいろと相談した結果、会を公民館で行なうことを決定しその公民館結婚によりブラスになる次の三点を強力に呼びかけた訳です。しかし実際には農村の人々が自主制に乏しい事や旧来の習慣の根深さから抜け切れない事情などによつて、その徹底が

なかなかむずかしい状態でした。一、人間性が強調される。二、家と家との結婚という觀念から離れ、二人が結ばれて家庭をつくり、お互いの人格を尊重し合うという基礎に立ち、社会の基本単位としての責任を持つということが強調される。三、経済的である。公民館には設備もあるし、家で行なうことによつて出てくる時間と費用が節約できると共に、家のわずらわしさが少なくなる。旧来の農家は儀式用として作られていたために日常生活において非常に不便である。公民館を使用することによつて、それらによる弊害がなくなり、日常生活を向上させることができる。

旧来行なわれてきた結婚披露宴には広範囲にわたつていて、改善するところがたくさんあります。一、挙に理想を求めようとしても、議論のみ多くて、実行が伴なわないう恐ろしいので、はじめは披露宴に重点をおいてゆき、その他の事項は、生活改善の趣旨に基いて社会の協力によつて順次改善してゆくことにしました。披露宴とは結婚した二人の親しい人々に集まつていただく、お祝いを兼ねて紹介の宴をはかるのが目的です。そこで私達はこれによつて出る冗費を省き、時として、祝宴

を会費制にし、参会者達が、二人を祝つてやる「祝賀会」でやることにしたのです。そしてこのような方法で昭和四十一年までに二回行ないました。しかし、これは結果的に村民の批判の声が大きかつたのです。その批判というのは一、旧来は贅沢すぎるほどお金をかけてやつたのを質素にしたもので、すから村民には不満だつた。二、それまでは農村において会費制という形のものを行なわれていなかつたのを、初めて行なつたもので、すから農村の習慣と肌が合わない面が多かつたということ。三、青年達が個々の家庭の事まで入つていつておせつかい過ぎはしないかという事等でした。しかしこの問題はこの会の主旨を考へて実行に移すとなればどうしても必要な事だと思ひます。ある程度はやむを得ないでしょう。そこで私達は又改善する必要にせまられました。即ち祝宴を会費制の祝賀会に加えて新郎の父の方で結婚する二人を紹介するという意味の「祝賀披露宴」の形式を選びました。そして昭和四十三年十二月二十三日までに五回実施してきました。その苦労したことを、二、三のべますと、私達の実際の仕事の内容、案内、会場準備、車転、運司会その他を運営するのに必要なことは全部行ないます。私たちがクラブ員は十五名ですが、定時制高校生二名は係につけられませんが、その人員ですべて運営に当ります。下足三名酒の総括一名、運転手三名、会場案内受付係四名、です。それにどうしたら参加者や新郎新婦から喜ばれるかと気苦労も多いし、前回会場

表2 祝賀会経費内訳予定

会費	1,000円	(当日受付で現金徴収する)
内訳	膳 400円	
	菓子 200円	
	酒 150円	
	雑費 250円	
	1,000円	
雑費の内訳		
案内	37円	{ハガキ 7円 印刷 15円 切手 15円}
車	30円	(3台×1,000円)
付人(他)	100円	{付人 6×1,000 仲人(他) 6×800}
手伝	70円	(10人×700)
他	13円	(会場使用料他)
	250円	
※	但し参会者は100人の場合	

表1 祝賀披露宴経費内訳

S 43. 12. 23	
◎ 収入	1,000 (会費) × 95 (人) = 95,000円……(A)
◎ 支出	
膳	400円 9品
菓子	400円 菓子皿
記念品	300円
ハガキ	100円
酒	200円
雑費	100円
	1,500円
	95×1,500=144,500円
(付人)	9×1,500=13,500
(仲人・両親)	4×1,200=4,800
	162,800円……(B)
(B) - (A) =	67,800円 → 新郎家負担

のふん囲気高めめるため装飾、照明、音響等に苦勞しました。祝賀会を盛上げるため余興なども私たちが率先して行ないます。こうして努力をしながらも最後は酒をのむ人も出たりするので人員が足りなくなり忙しさが増してきました。こうして万事私たちがやりやすから結婚式を行う家では、わずらわしさが解消され、経費も少く大変喜ばれております。この方法は以前のものに比較して村民との衝突は少なかつたのです。表一の通り収支決算した場合、新郎家では、六七、八〇〇円負担しています。これは祝賀披露宴となつて以上、やむを得な

# 豊水放談 23

## 「食管制冬の陣」

### 農民城、外濠埋めらるる

▲大阪城はなか／＼陥らない。家康は考えた。忍びの者を放ち城内を探索させた。その頃大阪城の大奥では抗戦派と和睦派が両派にわかれ争いの渦を巻いていた。家康は大阪城の内部事情を知りながら今一挙に攻めても味方の死傷を出すのみで中々陥らないと判断して和睦にもち込んだ。条件として外濠埋め埋めることであつた。勿論抗戦派は反対したが淀君を中心とした大野修理らに押し切れられ条件を呑み和睦、そして外濠埋め埋めた。数ヶ月で夏の陣

いことなのですが、できることならばこの赤字を思い切つて会費の中で決算することにして、以前の「祝賀会」に戻すという事です。これは同じことをくり返すよう思いますが過去五年間に、村民の理解が増してきた為にできることなのです。それから、二、三人ですが会費を守つてくれない人が出て来たという事です。これは、前にも言つたように赤字を出すという事に原因があります。「千円で間に合つていない、だから多く出すんだ」と、いうことです。これが私達中沢4HCの仲間が押し進めている、公民館使用による結婚披露宴の内容ですが、この

方式を始め、五年にわたります。その中で、さまざまな事を体験して来ました。この体験を心にとめて私達がこの運動を、更に発展させる為には、次のような課題を解決しなければなりません。一、経費を全部会費の中でまかなつてしまふ。(表二参照) 二、「嫁」道具を解決しなければならぬ。披露宴の改善もよいがそれより「嫁」の道具をどうしてくれるのだ、これが解決できないようだと意味が半減してしまふ。というよう意見がしばしば聞かれました。しかし、これは総体的な結婚改善運動を押し進める中で始めて問題

となり豊臣家は滅んだ。家康は外濠のある限り天下をとることが出来ないと考えま／＼と時を稼ぎ難攻不落の大阪城を陥入れた。 ▲四十三年夏頃から米が余つた古米をどうする。買入しても倉庫がない食管制度改廃の音が政府内部からのろしが上り巷に充滿したこれに対し各県とも市町村でも食管制を守る決議をし氣勢を挙げた。本県でも昨年十二月十六日食管制を守る大会が体育館で開かれた。竹内知事をはじめ、国会議員、県

として成立するものであつて、さつぱり運動してない時にこの問題だけを解決し得ることは難しい。従つてこの町村でも真剣に結婚改善運動を推進し得たときに何んらかの形でこの問題が解決の方向に進むと思ひます。幸い私達の進めてきたこの運動に公民館、農協村等広く社会から理解され、隣りの部落でも実施されました。結婚改善運動を更に誰でも気軽に実行できるように押し進めそれに付随したいろいろな問題を話し合いの中で解決し現在ある農村の悪い習慣や考え方を改め明るい近代的な住みよい農村をつくるためこれからも頑張りたいたいと思ひます

約五千人も集り氣勢を挙げ廃止に最大の抵抗と抗議をした。これをとらえ、東奥日報は倉管制冬の陣と命名した。 ▲米の歴史をみても天保大飢饉を境に幾多の騒動、一揆がある。天保七年豪商の買めによる米の大暴騰による餓死に追込まれた庶民を救うため大塩平八郎の乱がある。これは今の消費者を守るための乱であつた。更に今で云う生産者の一揆は米価の暴落と苛酷極年の貢増徴(増税)とのべ纏(増徴)を嚴重にされたことに終始している

による。変動等により安定のいと間もかく現在に迫込まれてきた農民の姿を忘れてはならない。 ▲食管制冬の陣も、来るべきころに来たか云う感じの中に外濠埋め埋められながら一応終つた。四十三年度の米価値上げ夏の陣において生産者団体は全国から代表者を結集し数日にわたり政府と対陣を敷いた。米価審議会は農業出身国会議員も生産者代表も加つておらない関係上、苦しい闘いとなつた。結局は総理の政治的裁断で不本意の価格で決定した。刀折れ矢つきた形で、涙をのんで和睦をした。最後に日比谷公園に集結し宮脇全国中央会長が、涙を押へ政府のかべが厚い、政府の意図するところは食管制の改廃にかゝつてはるか考へられぬ。諸君の毎日毎夜の健斗は涙ぐまじいものがあるが会長のおびんの至りを心から詫がる。諸君はそれが、国に帰るがこの闘いは今終つたわけではない。町村に帰つてもこの気をゆるめることなく地域農民と語り理解を深め一層団結を強化して欲しい。いつの日か政府自民党に必ず一矢をむくいる秋も来るであろう。と案に深い意味を訴へたことをテレビでみて今でも印象的であつた。

▲政府は食管法を一律に攻めても農民城は陥らないと判断した。そこで財政審議委を通じ生産、消費者米価を三ヶ年据置更に一五〇匹あたり四千四百四十六円引下げよと大蔵省を突き上げマスコンドそこで農林省は、七百五十万トンしか買はない。残り自主流通米と称して農協を通じ米商と取り引きしてもよいことに全国農協中央会幹部と逢つて話をつけている。

全国中央会はんの突き上げもなく妥協した。一部食管制はくずれた。完全外濠埋め埋められた。 ▲食管制改悪に橋頭保が築かれた。それを足がかりにジワリ／＼となしくづしに攻めて来ることは火をみるより明かである。時々甘糖をなめさせながら……米価を上げないと云つても古米、古々米を引き下げその額で新米価格を引上げようとしている。計算しても特に雀の涙程度である。それでも一応上げたことになる。だまされてはならない。自主流通米なんてハイカラ弁であるが中味はヤミ米に毛が生えたようなものだ。農協は我々の味方ではない。農民の不利益など考えるものではない。自己の利益のみ考えるのが乙なのだ。農協を中心に一九となり対処すべき四十年夏の陣が待つて居る。この問題等について農協青年部が大いに学習し、将来の営農の根幹を確立すべきである歴史は繰返してはと云わねばならない。日本の農民史をみても圧倒的連続に終始している。この近代化した今日農民だけが経済的圧迫を受け重味を背負う理由はない。平等の原則を貫くために眠つて相手まかせに手あぐらをかいていてるときではない。

▲農民城は今やもろくも崩れようとして居る。自主流通米の名のもとに外濠埋め埋められた。農協では生産者が自ら米をかうそして商人に売る、商人は足元をみて米が悪い、水分がある、量をもつと入れるとヤスメて買わぬことは充分考えられる。生産者あつての農協、農協あつての生産者なら一丸となつて内濠埋め埋めだけは死守することにつぎ。農民城の最新線農協協がぐらつくなら落城は目前だ……嗚呼…… (六九、一、一九)

# 炉

## 初めての言葉

明治百年に当たる昨年我が蓬田村でも比の式典を行ない明治の偉大さと先輩諸賢の悟して下さった恩恵と意識の深かさは村民等しく感謝の意を新しくした次第であります。

比の佳節に当たり我が高根部落でもその佳き年を、永遠に記念すべく鎮守の森(八幡宮)へ旧臘(ろ)う)十六日に大鳥居を建立奉納し部落民一同は明治百年の発展を悦び合い、未来の希望を神に誓い合ったのであります。

然し新しく迎えた現世代は尚一層目覚ましき発展を成し就けるであろう事はうたがう余地もないが明治も又遠くへ〜と薄れて行く様でならない。

そこで私は、せめて比の土地の傍らに雑草の様に生まれ、土にまみれ細々ながら育ちつゞけ、累々と語り続がれ、其の昔から我が家の炉端にも伝わり、寝床の中で或いは親の肘頭の上で聞かされて来た昔唄や童歌を、を混いて忘れていた中から記憶を辿りつゞ不肖浅学をも返り見す比の稿を皆さんの紙面をお借りして掲載して見ました一人でもお読みになつて、明治に近かつた、昔の人の地熱の様な温りのある心情を探り、土地の恵みを悟り、現世期発展の一瞬の憩の量にでも質すれば幸甚であります。

# 邦端

## 雄

### しかだ剃ぎ(昔唄)

昔昔今夜みてえに寒く雪コアのそのそ〜で降つて淋(さぶ)の夕(げ)にならばおら方の八幡様から太鼓の音コあしばらぐ聞けて来て太鼓の音コあ止めばお宮の戸コは、がらつと開(あ)げで五、六人のしかだ剃ぎ共あ出て来たもんだとヤアそのしかだ剃ぎの顔の恐しいつたらどこにもない様に恐しんであつたど口ア耳まで割れて眼アランプのホヤみたえにぎら〜ど光つて髪アもじや〜どなつて、けら〜着て小さい樽コば担いで大きだたしるば腹にさして今夜も又新しい、しかだコ食うて好いお宮がら踊りながら村の方さ坂道コ、さがつて来るど、かちいだ樽コば、太鼓のかわりにたよきなながら

(樽コ) とろしことんとん  
とろしことんとん

(唄コ) しかだコ剃げだが剃げだがじやしかだコ剃げだが剃げだがじや繰り返し〜踊りながら唄コかけで来るどそして村のはじめの家コさ行つて今夕誰れもしかだコ、たげでいる者あいな、ごんぼほりだ童(わらし)いねなつて来るど、家の中から、しかだ剃ぎ様しかだ剃ぎ様いまおら家に最中〜あ有ら手つげらわね童(わらし)あ有ら

はで早く連(つ)ひて頼むど

そひば、しかだ剃ぎ共あ皆して、ダワラ〜ど家の中さ入つて来てじよいでも、寝床でも探してあるぐど、二尺も三尺もあるたしるば抜いで恐し眼で皆ばならぬながらどの童ア今迄で、ごぼほりだ奴だばて聞ぐど。家の人あ皆だまつて居るし、其の、ごぼほり童アおつかながら、びつたど、止まれば知らないで行くど、もしまだほつたさ涙でも流していれば大変、持つて来た大きなしるで耳コあ一番うまいがらつて両方の耳コば、ぼろ〜どもぎ取つて、担いで来た樽コさ入れて次に鼻コだのはつべたコだの切つて樽コさつめてしまど。それからごんぼの根ぬげつて、しやべらはで何んだべど思ていだら恐し〜大きだ釘抜き出して、此れで舌ぬげ、此ればぬげば、ごぼほれなぐならはでてぼつと、ぬげば真赤だ血がだら〜ど流れで来て、ごぼほり童ア、いだが助けでける〜で騒いでも手の指コだの足の指コだのみんな取つてしまれば全身真裸にして、しかだコあ有るが無いが調べで見一すでも、しかだらし形コあ付いでいれば、大きだたしるでける〜ど皮コば剃いで樽コさつめてしまど、あまり、へそさ胡麻ば付けで、これからごんぼほり童でも、しかだでも有つたら知らせろ早速来るはでつて隣りの方さ行つてしまど。

(唄コ) とろしことんとん  
とろしことんとん

(唄コ) しかだコ剃げだが剃げだがじやしかだコ剃げだが剃げだがじや一軒残らず廻つて、一番鶏が鳴く頃になれば、さあ一番鶏あ鳴けば

夜ア明けで来らばで早くにげべすて急いでお宮に帰つてしまどお前達も行つて見ろお宮の前の掛の下ねしかだ剃ぎ共にくわれた童の手の骨コだの、足の指の骨コだの真白で、まだ有るはずだはで、淋しど悪く〜れば、たまし〜も出らばで。

夜(注) 焚火に裸をかざしと表皮に出来る赤く丸い形(火形)なまつて(しかだ) (たしろ) 刀と鉋の子の様な刃物(後説) 筆者が昨年秋田の男鹿半島に旅した時秋田の(なまはげ)を見て当地のしかだ剃ぎに似た様な気がしました。伝えたものか伝はつたものか不肖には知るよしもないが

## 中沢、小国婦人会交換会

中沢婦人会(会長坂本とこ)小国婦人会(会長石田すみ)が去る二月二日中沢公民館において交換会を開き地域の現状や組織の今後の在り方について討議研修されたこの催しの特色として単に中沢婦人会だけでなく蓬田連綿各地域から役員が参加して討議に加つたことは更にこの会を盛り上げた。

交換会に先だち公民館長が親子関係と今後の在り方についてお話しの後、武井きの司会により自己紹介から始まり、最初に地域の組織について話し合がなされた。

共通点として役員になりてがなくて困ると、集会にどうしたら多数参加出来るか等話しあひ困つていてることを出し合ひ打撃策を巡つて活発な意見のべられた。

更に主婦の座として最も関心の深い冠婚葬祭の簡素化について地域の事例を発表し、各町村に呼びかけ、各地、も足並み揃えて運動を統(つ)動を申し合せ成果を

## 蟹田青協と交換会を行う

去る二月十一日午前十時から午後四時まで広瀬公民館において蓬田村青年団体連絡協議会と蟹田町青年団体連絡協議会の交換会を行った。自己紹介をしたり、話し合い、ダンス、ゲーム等をして楽しい一日を過ごした。

去る一月二十八日蓬田部落公民館において、村青年団OB、山館誠弘、吉崎良一、下山嘉幸、坂本重彦、高田満、藤田尚政、清水六男をむかえて青年団体連絡協議会と交換会を行った。

青年団体活動のあり方、以前の連合青年団と比較して等いような事を話し合ひ、盛会のうちに幕を閉じた。

OBと語る会を行う